

外部評価 地域かかわりシート② (結果まとめ様式)

A. 事業所自己評価の確認

評価日：平成30年3月22日(木)

No	項目	はい	いいえ	わからない
1	少なくとも常勤のスタッフが全員で事業所自己評価に取り組んでいることが確認できましたか？	4		1
2	事業所自己評価を作成する際、事業所の常勤スタッフ全員の意見が反映されていることが確認できましたか？ ※ただし、ミーティングの場面では常勤職員の2/3以上の参加が望ましい	4		1
3	前回の改善計画に対して、スタッフ全員で具体的な取組みが行われていましたか？			
4	今回の改善の必要な点が明らかになり、その改善計画が具体的に立てられていますか？	4		1

<p>【上記4つのチェック項目に関する意見】 ※結果ではなく、事業所自己評価に取り組んだ経過（姿勢）に対する意見</p>
<p>【前回の改善計画に対して意見】 ※前回の改善計画に対しての取組み結果に対する意見</p>
<p>【今回の9つのテーマごとに記入された改善計画に対する意見】 ※今回の改善計画が具体的かつ達成可能な計画になっているかについての意見</p>
<p>【「自己評価」をテーマにした自由意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人員配置が小多機の現状に見合ったものとなっているのか？ 掲げた計画を実行するには適切な人員配置の下でなければ実現は難しいのではないだろうか ・
<p>【改善計画】 ※後日記入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 欠員となっている正職員の補充と、月に20回の宿泊サービスを可能とするための人員配置（準職員1名増）を新年度も目指す。 ・ 事業所内の創意工夫により、まずは小規模多機能ホームを地域の皆さんに知ってもらえるよう、具体的な改善策に掲げた「できること」から行っていく。

B. 事業所のしつらえ・環境

No	項目	はい	いいえ	わからない
0	前回の改善計画について取組んでいましたか？			
1	家族や地域の方が、事業所に入りやすい工夫がなされていますか？	3		2
2	事業所は、居心地がいい空間になっていますか？	4	1	
3	事業所内・外に、不快な音や臭い等はないですか？	5		
4	日中、事業所の門や玄関にカギはかかっていますか？	5		

【上記5つのチェック項目に関する意見】

- ・宿泊棟が日中過ごすデイエリアと違う建物で、一度外へ出て長い距離を歩くのは、利用者にとっても不便であり、認知症の方にとって混乱の要因となる。本人もつらいスタッフもケアが大変になるのではないかな。
- ・宿泊棟が狭すぎて、宿泊している方がくつろげない。見ていて気の毒だ。感染予防の観点からも、グループホームの家族が宿泊棟の玄関から出入りするの是不適切ではないかな。
- ・宿泊でくつろいでいる方と玄関の距離が近すぎて出入りする時に迷惑をかけてしまうのではないかな。

【前回の改善計画】

【「事業所のしつらえ・環境」をテーマにした自由意見】

- ・宿泊棟と小多機のデイルームと離れたメリットはあるのか。
⇒建築上の問題から、現在の構造になっておりメリットとして、グループホームの夜勤者と小多機の夜勤者2名になる事で何か起こった時の対応など協力体制がとれるのではないかと予測されたが、実際は両者間の距離が長く夜勤者が行き来するにはリスクが伴う事が判明。現状は独立した動きとなっている。また、就寝前の交流は、眠る準備をするサイクルから見て困難な状況。
- ・デイルームの消火栓前のドレッサーは何かあった時のためにずらした方が良い。

【今回の改善計画】※後日記入

- ・会議翌日より消火栓前のスペース確保と利用者さんにとって安全な動線にドレッサーを配置変更しました。
- ・宿泊棟のくつろぎスペースについては、カウンターを撤去する事が可能なのかどうか町に確認する。

C. 事業所と地域のかかわり

No	項目	はい	いいえ	わからない
0	前回の改善計画について取組んでいましたか？			
1	職員はあいさつできていますか？	5		
2	事業所は、地域の方に知られていますか？	3	1	1
3	何か困りごとや相談ごとがあった場合に、事業所は相談しやすい場所になっていますか？	3	1	1
4	事業所のスタッフは、地域の行事やイベントに参加していますか？	3		2

【上記5つのチェック項目に関する意見】

- ・小規模多機能がどのようなサービスなのか、推進員もまだ把握できていないし、町民も知らない人の方が圧倒的に多い。
- ・困りごとの相談は、町の保健師というのが今までの流れで小規模多機能がそのような役割を担っている事は誰も知らない。
- ・田舎祭りには参加しているが、それ以外は参加できていない。

【前回の改善計画】

【「事業所と地域のかかわり」をテーマにした自由意見】

- ・自治会のごみ拾いに参加するのもよいが、地域に暮らす方が気軽に介護の悩みを相談できる機会や場所を作ってはどうか？

【改善計画】※後日記入

- ・老人クラブの集まりや自治会に管理者が参加して、小規模多機能ホームを紹介し、看護師が介護お悩み相談会を開催できるよう取り組む。

D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み

No	項目	はい	いいえ	わからない
0	前回の改善計画について取組んでいましたか？			
1	利用者を事業所の中だけに閉じ込めていませんか？	3	2	
2	利用者本人が住んでいる地域の方を交えた会議が行われていますか？	2		3
3	事業所の利用者は、地域の行事やイベントに参加していますか？	3	1	1
4	利用者以外のご近所のご心配な方に、事業所はかかわっていますか？	1		4

<p>【上記5つのチェック項目に関する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービスを利用すると、家と事業所の行き来だけになってしまっている。
<p>【前回の改善計画】</p>
<p>【「地域に出向いて本人の暮らしを支えている」をテーマにした自由意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の認知症の理解はどうか？ ・小多機が地域の万屋相談所機能を担っていることを知らなかった。サービス提供以外にそこまでやれるのか？ ・今までに、小規模多機能ホームに介護相談が来たことはあるのか？⇒1件あり ・今年度は、事業所立ち上げとサービスを提供する事のみで終始してしまった。利用者の地域参加はスタッフ同様行えていない。 ・現状の人員配置で地域の出でいく事は可能なのか？
<p>【改善計画】※後日記入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーター研修以外にも、老人クラブへ出向いて認知症の理解と関わり方の講座を行っていく。(まずは、本郷地区から) ・ボランティアセンターを軌道に乗せ、ボランティアさんの力も借りながら一緒にゴミ拾いやサロンへの参加を行っていく。 ・次年度は、自治会や老人クラブへ出向いて小規模多機能ホームを知ってもらう活動から行い、交流のきっかけづくりを行う。

E. 運営推進会議を活かした取組み

No	項目	はい	いいえ	わからない
0	前回の改善計画について取組んでいましたか？			
1	運営推進会議では、事業所の取組みが解かりやすく説明されていますか？	5		
2	運営推進会議では、地域の心配の方等の事例検討が行われていますか？	2	1	2
3	運営推進会議では、地域での取組みを一緒に取組もうとしていますか？	3	1	1
4	運営推進会議で出た意見を、改善につなげていますか？	4		1

【上記5つのチェック項目に関する意見】

【前回の改善計画】

【「運営推進会議を活かした取組み」をテーマにした自由意見】

- ・事業所からの実績報告が主な内容となっていた。今回の外部評価を通して、推進委員と事業所がどのような小規模多機能ホームを作り上げていくのか議論するのが会議の目的であるという事を今回理解できた。
- ・新規利用者の相談経路や支援経過を会議で報告してもらい、多様な支援をどのように行っていくのか議論できるといいのではないかな。
- ・運営推進委員に、本郷地区の老人クラブの方を加えてはどうか。

【改善計画】※後日記入

- ・次年度、運営推進委員に豊生会（本郷老人クラブ）を加える。
- ・推進委員さんに、運営会議の目的と運営方法について説明し理解してもらい、報告会で終わらないよう取り組む。
- ・会議で新規事例や困難事例の支援経過説明や地域で気になる方がいないかの確認を行う。

F. 事業所の防災・災害対策

No	項目	はい	いいえ	わからない
0	前回の改善計画について取組んでいましたか？			
1	事業所の防災計画（火災・風水害・地震等）を知っていますか？	3	1	2
2	事業所は、地域の防災訓練に参加・参画していますか？	3		2
3	事業所の防災訓練に参加したことがありますか？		5	
4	災害時、事業所は頼りになりそうですか？	3		2

<p>【上記5つのチェック項目に関する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東北の震災以降、災害対策マニュアルの見直しや作成が行われていない。 ・火災訓練以外の防災訓練を実施していない
<p>【前回の改善計画】</p>
<p>【「事業所の防災・災害対策」をテーマにした自由意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政の災害対策指針に基づいて、厚真町社会福祉法人や事業所間でどのように連携し各事業所がどのような役割を担うのか協議していく必要がある。 ・災害時の暖房機器の取り扱いに注意が必要。
<p>【改善計画】※後日記入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度は、行政の災害対策指針に基づいたマニュアルの作成と訓練計画を作成する。

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	厚真町 社会福祉協議会	代表者	加藤 恒光	法人・ 事業所 の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・山村から浜までの縦長地形。町全域を対象とした事業所である為、中学校圏域を超えた支援を要する。 ・高齢者生活支援センター併設だが、在宅生活者の利用が多い。 ・65歳未満家族と同居者の通所利用回数（週3～5回）が多い。
事業所名	小規模多機能ホーム 「ほんごう」	管理者	村上 朋子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	2人	人	2人	1人	人	4人	人	人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の 確認			<ul style="list-style-type: none"> ・人員配置が小多機の現状に見合ったものとなっているのか？掲げた計画を実行するには適切な人員配置の下でなければ実現は難しいのではないだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・欠員となっている正職員の補充と、月に20回の宿泊サービスを可能とするための人員配置（準職員1名増）を行う。 ・事業所内の創意工夫により、まずは小規模多機能ホームを地域の皆さんに知ってもらえるよう、できることから行っていく。
B. 事業所の しつらえ・環境			<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊棟と通所が違う建物で、一度外へ出て長い距離を歩かなければいけない構造となっている。利用者の大半を占める認知症の方にとって混乱の要因となる。風雪にさらされ、本人もつらいしスタッフもケアが大変になるのではないか。 ・宿泊棟が狭すぎて、宿泊している方がくつろげない。感染予防の観点からも、グループホームの家族が宿泊棟の玄関から出入りするのは不適切ではないか。 ・宿泊でくつろいでいる方と玄関の距離が近すぎて出入りする時に迷惑をかけてしまうのではないかと気が引ける。（グループホーム入居者のご家族より） ・宿泊棟と通所エリアを離れたメリットはあるのか。 ・ダイルールの消火栓前のドレッサーは防災の観点から撤去すべきだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会議翌日より消火栓前のスペース確保と利用者さんにとって安全な動線にドレッサーを配置変更しました。 ・構造上の問題解決は難しいが、ケアの工夫や宿泊棟への移動時の風雨・風雪対策は引き続き検討していく。

<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・小規模多機能がどのようなサービスなのか、推進員もまだ把握できていないし、町民も知らないの方が圧倒的に多い。 ・困りごとの相談は、町の保健師というのが今までの流れで小規模多機能がそのような役割を担っている事は誰も知らない。 ・田舎祭りには参加しているが、それ以外は参加できていない。 ・自治会のごみ拾いに参加するのもよいが、地域に暮らす方が気軽に介護の悩みを相談できる機会や場所を作ってはどうか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・老人クラブの集まりや自治会に管理者が参加して、小規模多機能ホームを紹介し、看護師が介護お悩み相談会を開催できるよう取り組む。
<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・サービスを利用すると、家と事業所の行き来だけになってしまっている。 ・地域の認知症の理解はどうか？ ・小多機が地域の万屋相談所機能を担っていることを知らなかった。サービス提供以外にそこまでやれるのか？ ・今までに、小規模多機能ホームに介護相談が来たことはあるのか？⇒1件あり ・今年度は、事業所立ち上げとサービスを提供する事のみで終始してしまった。利用者の地域参加はスタッフ同様行えていない。 ・現状の人員配置で地域の出していく事は可能なのか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーター研修以外にも、老人クラブへ出向いて認知症の理解と関わり方の講座を行っていく。(まずは、本郷地区から) ・ボランティアセンターを軌道に乗せ、ボランティアさんの力も借りながら一緒にゴミ拾いやサロンへの参加を行っていく。 ・次年度は、自治会や老人クラブへ出向いて小規模多機能ホームを知ってもらう活動から行い、交流のきっかけづくりを行う。
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・事業所からの実績報告が主な内容となっていた。今回の外部評価を通して、推進委員と事業所がどのような小規模多機能ホームを作り上げていくのか議論するのが会議の目的であるという事を今回理解できた。 ・新規利用者の相談経路や支援経過を会議で報告してもらい、多様な支援をどのように行っていくのか議論できるといいのではないかな。 ・運営推進委員に、本郷地区の老人クラブの方を加えてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度、運営推進委員に豊生会（本郷老人クラブ）を加える。 ・推進委員さんに、運営会議の目的と運営方法について説明し理解してもらい、報告会終わらないよう取り組む。 ・会議で新規事例や困難事例の支援経過説明や地域で気になる方がいないかの確認を行う。

F. 事業所の 防災・災害対策			<ul style="list-style-type: none">・東北の震災以降、災害対策マニュアルの見直しや作成が行われていない。・火災訓練以外の防災訓練を実施していない。・行政の災害対策指針に基づいて、厚真町社会福祉法人や事業所間でどのように連携し各事業所がどのような役割を担うのか協議していく必要がある。・災害時の暖房機器の取り扱いに注意が要。	<ul style="list-style-type: none">・平成 30 年度は、行政の災害対策指針に基づいたマニュアルの作成と訓練計画の作成。
--------------------	--	--	--	--

